

2/10
午後

レッドアクションで

岐阜

外国籍の学生も「戦争反対です」
「2000万統一署名にご協力下さい」
新日本婦人の会中央本部が作製した大きな横断幕を広げて5日、名鉄岐阜駅前で毎週金曜日定例の新婦人レッドアクションが12人の参加で行われました。

か、新婦人岐阜支部の戸部紀子さん(74)、関由美さん(36)ら4人が交代でマイクを握り、「安福憲法は子どもたちに必要な法律なのだろうか。若いパパやママで話し合ったら、戦争で殺し殺されることにつながる法律だから、いま反対の声をあげないと取り返しがつかなくなる」との声を紹介し、戦争法廃止の署名を呼びかけました。

年金者の女性(78)は「小学3年生のとき終戦を迎えたけど、いのが粗末にされることとは絶対にダメ。戦争は本当に恐ろしいよ」、仕事帰りの会社員の男性(57)は「何も罪のない人をなぜ殺すのか、戦争は意味がない」、ベトナムの国籍がある女子大学生(18)はスタッフに近寄り「署名してもいいですか」と話し、「私も戦争は反対です」とそれぞれ思いを語りながら署名しました。

わずか30分で23人の署名が寄せられました。

富山
次の戦争考える首相は許せない
「女性のレッドアクション」とも呼ばれていると訴えま

ションとやま実行委員会は7日、富山市のCIC前広場で、戦争法廃止と改憲を許さないスタンディングアクトを行った。前回は上回る80人が参加しました。参加者がリレートークで、それぞれの思いを話しました。憲法講演会の講師を務める社会学者の上野千鶴子氏も駆け付け、昨年9月10日の強行採決を忘れず、憲法を守るためにとてにがんばろうと呼びかけました。日本共産党のひづめ弘子県議は、北朝鮮のミサイル発射を糾弾し、安倍政権や自民党が「だから戦争法が必要だ」と声高に叫んでいることを



一列に並んで、戦争法廃止を訴える参加者—7日、富山市

批判。北朝鮮を6カ国協議のテーブルにつかせ、平和的な話し合いをすることを求める。参加者は、通りかかった人に戦争法廃止の思いを語りました。

2000万署名も呼びかけました。初めて参加した富山市の女性(78)は、「いまの(天皇は先の戦争のことを心に秘めているが、安倍首相は次の戦争を考えていて許せない。憲法があったからこそ70年平和でいられた」と戦争法廃止への思いを語りました。スタンディング後の憲法講演会には、会場いっぱい約350人が参加。上野氏は「決めるのはわたし、変えるのは私たち」「立憲主義ってなんだ？」と題して社会学、女性の視点から憲法について話しました。